基地対策特別委員会行政視察報告書

日　程　令和４年１１月１６日（水）～１７日（木）

視察先　１，衆議院第２議員会館での防衛省の出張セミナー（災害派遣と住宅防音工事）
　　２，航空自衛隊　目黒基地、　３，航空自衛隊　熊谷基地
参加者　杉田隆一委員長、卯野修三副委員長、東　正幸委員、山本　悟委員、
　　中野廣志委員、　随行　議会事務局杉林　　計６名
目　的　自衛隊の災害派遣と住宅防音工事の現状の確認と、関東にある自衛隊の教育機関を現地視察して、教育のカリキュラムの現状の確認

１，衆議院第２議員会館で防衛省の出張セミナー

対応者　防衛省統合幕僚監部１名、地方協力局地域社会協力総括課２名、防衛政策局１名の計４名

（自衛隊の災害派遣について）

平成６年度（平成７年１月）	約１５７万人　阪神淡路大震災等
平成２３～２４年度	約１０７４万人　東日本大震災等
平成２８年度	約８５万人　熊本地震等、
平成３０年度	約１１９万人　７月西日本豪雨等、
令和元年度	約１０６万人　東日本の台風等
令和３年度	約３万５千人

災害派遣要請の仕組み。

要請権者は都道府県知事であるが、阪神淡路大震災をふまえ、市長村長が都道府県知事に要請を要求できるようになった。

災害派遣の判断基準

１．緊急性　　状況からみて、差し迫った必要性があること。
２．非代替性　自衛隊の部隊以外に、適切な手段がないこと。
３．公共性　　公共の秩序を維持するという観点において妥当性がある。

活動内容

捜索救助、特殊災害対応、空中消火、復旧活動、給食支援、給水支援、入浴支援、応急医療、物資輸送、患者空輸、情報収集ドローン

航空自衛隊小松基地の主要な災害派遣実績（令和３年４月～４年１０月）

緊急患者空輸３回（舳倉島―金沢）、グライダー捜索救難１回、

そして、住宅防音工事、学校防音工事、移転措置について講義を実施

当日の主な質問

災害派遣要請について

「鳥インフルエンザ、豚コレラはなど、民間に任せればと思うが」との質問には、「知事から要請があれば、出動します。」との話がありました。

騒音について

「騒音の調査はどこで行なっているのか」との質問には、「各自治体でも計測しているが自衛隊としては、能美市では根上中と粟生小で計測を実施している」とのことでした。

住宅防音工事について

昭和５９年以前に建築された住宅のみが住宅防音工事の対象だが、その見直しについての質問には、

「今後、三沢基地からのＦ３５最新鋭ステルス戦闘機が 2025 年に配置の際には、入念なる騒音などの調査で、新たな地域の改訂などの告示が出る可能性もあるが、現段階では、全く未定である」また、「尚、小松基地周辺では、16,700 世帯が住宅防音工事を終了し、能美市地区では 3,700 世帯終了している」とのことでした。

能美市に防衛省の体育施設、福利厚生施設が全くないが、設ける予定については、「今後、自衛隊員が大幅に増加などで施設不足などの要因があれば、全体計画のなかで検討になるが、現段階では予定はない」との見解をいただきました。

（所感）

自衛隊は防衛が主な任務であるが、今回の視察から、災害派遣が増え私たちの安全安心な生活を守るためには、欠かせない存在となっていることを深く理解しました。

近年、東アジア、ロシア情勢が緊迫化し、小松基地からの緊急発進のスクランブル発進も増えており、日本海側の砦である小松基地の重要性も増しているなか、航空機パイロットの養成は急務であり、騒音対策、住居などの生活安全対策に十分考慮していただいた上での国防に取り組んでいただき、平時から能美市議会も小松基地と緊密な連携をとれる体制づくりに努めなければならないことを改めて認識したものであります。

尚、今回は市ヶ谷の防衛省から４名の職員が、永田町の会館までご説明に来ていただき、小松基地を含めた内容の濃い出張セミナーの場を設けていただいたことで、防衛省が周辺自治体の議会との共存関係を大切にしている思いがさらに深まる場でありました。

２，　航空自衛隊　目黒基地

対応者　学校長（目黒基地司令）、副校長（小松市出身）、総務課長（白山市出身）、人事課長（小松市出身）で、石川県出身者が幹部におられました。

東京都目黒区中目黒２－２－１に所在して、防衛装備庁、統合幕僚監部、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊が共同使用している防衛省目黒地区施設の航空自衛隊幹部学校（12,000 人）を視察。12 万㎡の敷地に学校は４万㎡、艦艇装備研究所８万㎡を有する。

航空自衛隊の幹部自衛官に対し、中級および上級指揮官として必要な知識・技能を修得させると共に、航空自衛隊の能率的な管理・運用や航空防衛政策の調査研究を実施する学校である。

幹部候補生学校（2 尉）―幹部普通課程 10 週（2 尉・1 尉）―指揮幕僚課程 47 週（3 佐・2 佐）―幹部高級課程 25 週（1 佐）といった実践的な多くのカリキュラムを受講しており、当日は授業の一部として 30 分：戦略的思考を聴講させていただいた。

３，航空自衛隊　熊谷基地

対応された副校長は、目黒基地と同じく石川県出身で、白山市出身でした。

基地司令は第４術学校長を兼務。埼玉県熊谷市拾六間 839 にあり、第４術科学校が配置されている。2011 年に生徒隊（中学校卒業者）を廃止。

現在は、教育隊が配置されており、自衛官候補生、一般曹候補生として入隊した隊員は、本基地、又は防府南基地で約３か月の基礎訓練を受けることになる。第４術科学校では、新隊員課程、幹部課程を卒業した航空自衛官に、通信・情報、気象、IT 関連、通信器材の操作および整備について教育訓練をおこなっている。

視察当日は、気象レーダー整備教育のＩＴ体験として、ゴーグルを装着してのＡＲ（拡張現実）、ＭＲ（複合現実）を体験するなど、気象技術の進化や学習には最先端の技術を取り入れた取組を展開しており、国防における真の学校現場を目の当たりにしました。また、熊谷基地には気象予報士は 13 名いるとのことでありました。

最後に教育参考館を見学。熊谷陸軍飛行学校と航空青年隊の資料の説明を聴講。

前基地司令が女性であったことから、全国の自衛隊員の女性割合を質問し、「1990 年代は 3.5%、2017 年に 7.6%、2030 年までに 10%を目指す」とのことでした。

（所感　目黒基地、熊谷基地）

目黒基地では、航空自衛隊の活動を SNS、特に Twitter で発信し、若い方々にも訴求し続けており、また、熊谷基地では毎年４月の桜まつりには、近隣の住民の方々との交流を深めるなど、両基地ともに国民や地域に寄り添いながら活動していることをあらためて理解することができ、私共も今後、地元の小松基地との情報共有の大切さを再認識することが出来た視察となりました。